

広島修道大学第5期中期事業計画

「開拓者精神を育てる基盤づくり」

本学では5年ごとの中期事業計画を策定している。広島修道大学第5期中期事業計画は、長期ビジョン「2040年の広島修道大学ビジョン」の目標年である2040年に向けた2025年度から2039年度までの15年間に設けられる3つの中期事業計画の第1段階として位置づけている。その目標は「開拓者精神を育てる基盤づくり」である。

中期事業計画は策定して終わりではなく、その作成過程からと実施過程を通じて、建学の精神・理念・長期ビジョンと、日々の私たちのがんばりの成果が結びついているという実感を、教職員全員が意識できるようになることが重要であると考えます。事業の達成はもっとも重要であるが、仮に達成まであと一歩という結果であっても、達成に向けて取り組んだプロセスを適切に評価したり、なぜ達成できなかったかという課題を明らかにすることで、多くの実りを得ることができる。

物事は土台、基盤が大切である。広島修道大学第5期中期事業計画のもと、「2040年の広島修道大学ビジョン」の基盤づくりに向けて、教職員の協創力を発揮していこう。

広島修道大学 学長 矢野 泉

VISION2040 開拓者精神：未知（道）を切り拓く挑戦と創造の拠点

基本的な指標、大切な価値観としての6つの「VALUE」

VALUE01 誰もがやりたいことに挑戦できるトボス トボスとは、ギリシャ語で「場所」を意味します。開拓者精神を醸成するトボスとして、広島修道大学が学生たちにとって挑戦の場所、大切な居場所、誰もがそこで充実した学生生活を送ることができる場所となるようさまざまな環境面を整えていきます。	VALUE02 地域を導き世界を変える研究力 研究者個々の研究活性化とともに、学内で広く研究交流の場を設け、大学全体として研究力を高めます。特色である広島や瀬戸内地方に関する研究の拠点性を高めるとともに、研究者の自由な発想と研究意欲を幅広い学術的成果につなげ、社会に還元します。	VALUE03 ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン 「多様性」「公平性」「包摂性」を大切にし、多様な背景をもつ人々が学べるキャンパス、学びたくなるキャンパスを創出していきます。また学生だけでなく教職員も含め、全ての構成員が個人として尊重され、それぞれの能力を発揮できる環境を整えます。	VALUE04 デジタルシナジーキャンパス 学生の成長のみえる化、I R（インスティテュショナル・リサーチ）機能の強化、教育・研究を活性化させる円滑な手続きの構築、大学内の人材・資源・空間を有効に活用するための業務DX（デジタルトランスフォーメーション）等、教育・研究・運営面においてさまざまな情報や新しい技術を挑戦的に活用していくとともに、そのための環境整備を進めます。	VALUE05 コラボラティブでイノベティブな組織文化 VISIONの達成につながるアイデアや課題意識が大学構成員から次々と生み出され、それらを共有し、積極的創造的にその実現に取り組むことができる組織、体制、制度、意識風土を構築します。	VALUE06 社会からつながりを求められる大学 広島修道大学で学ぶこと、広島修道大学で働くこと、広島修道大学とつながることが一人一人の誇りとなるよう、教育の方針や優れた取り組み、研究の成果、さまざまな学生活動を発信していくとともに、それらが社会との有機的つながりの中でさらに進化するよう取り組みます。
---	--	--	---	---	--

VALUEを実現する、第5期中期事業計画

広島修道大学第5期中期事業計画「開拓者精神を育てる基盤づくり」

全学行動計画
（主要項目）

I 教育	II 研究	III 社会貢献・地域貢献	IV 大学運営	V 挑戦的な取り組み
1. 学修者本位の教育の実現 2. 教育の質を高めるための支援と検証体制の充実 3. エンロールメント・マネジメントの実現 4. グローバル・コンピテンスの向上	1. 研究活動推進の全学的な機運醸成 2. 効果的な支援による個別研究の活性化 3. 教育還元・社会還元のための研究成果の質的量的拡充	1. 地域に開かれた大学（キャンパス）づくり 2. 連携の推進と魅力ある連携事業の実現 3. 学生の社会活動の活性化	1. 働きやすく生産性の高い職場環境の構築 2. 健全な財政基盤の維持 3. 個々と組織の成長につながる人財活用制度の構築 4. 危機に強いマネジメント体制の構築 5. 内部質保証の強化	1. 多様な学生が集う学び舎づくり 2. 広島修道大学（修大ブランド）のプレゼンス向上 3. 活動の活性化につながる教員活動評価制度の構築 4. 長期的な教育組織再編計画の策定

I 教育

1 学修者本位の教育の実現

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE	
1	教学マネジメント事項の実効性を高める	内部質保証システムにおける、教学マネジメント委員会の位置づけを明確にし、教学マネジメント事項の実効性を高める。	01 04	03 06
2	学生が自らの学びに主体的に取り組むことができるよう、学修成果を把握する手段の1つとして学修ポートフォリオを充実化し、有効に活用できる仕組みを構築する	- 学修ポートフォリオを有効活用できるような仕組みを構築する 2028年度までに学修ポートフォリオに記載した内容をデータで出力し、進路先等に提出できるよう支援し、検証する	01 04	03
3	学修者本位の体系的なカリキュラム構築に向けて、次期カリキュラム改正（2031年度を目途）の準備を整える	- 全学的な現カリキュラムの検証と次期カリキュラム改正に必要な課題やポイントの整理 - 次期カリキュラムの改正内容の決定 - 入学前教育プログラムの見直し	01	03
4	各研究科・専攻の3つのポリシーに沿ったカリキュラムの充実	- カリキュラムの検討 - 中期事業計画期間における人材育成のアウトカムの検証	01 02	06
5	学生の各種相談窓口をワンストップ化する等、様々な学生がより相談しやすく、より活発な活動や生活の充実につながる包摂的な学生支援の仕組みを検討し、可能なところから実現していく（次期中期事業計画にむけてのスモールスタートの実施）	- 窓口ワンストップの新しい仕組み導入と検証 2028年度までに窓口のワンストップ化に向けた教学支援業務の整理と改善を行う - ソフト面で窓口のワンストップ化に向けた学生生活支援業務を整理する	01 04 05	03
6	学修者本位のカリキュラムによる成長可能性を念頭にいた選抜方法の改革（入学者の比重が高まる学校推薦型選抜や総合型選抜等における試験内容・方法と評価手法の改革）	- 年内入試のあり方の検討、改善提案 - 年内入試の評価指標等を見直し、新たな入試制度及び評価・面接方法を実施する	01	03
7	安定的な志願者の確保	- 大学院入試の影響分析 - 定員充足に向けた継続的な努力	01	03

2 教育の質を高めるための支援と検証体制の充実

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE	
1	教育の質の向上の一助となるよう手法的な部分において、多様な教育手法を学ぶ機会を創出し、各教員が必要な改善を積極的に行うことができる仕組みを構築する	- 適切な教学マネジメント遂行ならびに改善のため、授業アンケートの回答率向上を目指す - 授業参観制度の見直しを行い、教育の質向上に貢献できるような全学的な仕組みの導入および実施	01 04 05	
2	全学及び各教育組織におけるアセスメントプランを有効に活用し、FDやカリキュラムの見直しにつなげる	2029年度までに、アセスメントプランを有効に活用し、FDやカリキュラムの見直しにつなげる - アセスメントプランに基づく授業改善効果の検証	01 04	03
3	教育の質の向上、学修成果の向上のための施設・設備を充実させる	- 授業等で使用する施設・設備の情報を収集し、関係部局と情報を共有して改善する - 施設・設備の充実計画を財政・施設面で検証・調整	01 04	03
4	教育のグッドプラクティスを行う教員の表彰（インセンティブ）制度を導入する	- 優れた教育に対する表彰やインセンティブ制度の構築 2028年度までに教育のグッドプラクティスを行う教員の表彰実施		03 05
5	SA・TA制度の拡充により、きめ細かな学生指導を充実させるとともに、ティーチング経験を通じた学生の成長を実現する	- SA・TA制度の検証と定着 - SA・TA制度の拡充を進めて学生指導を充実させるとともに、SA・TAの経験を通じた学生の成長を促す	01	03

I 教育

3 エンロールメント・マネジメントの実現

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE		
1	学生指導や支援、カリキュラム改善に寄与するエンロールメント・マネジメントに必要な学生の入学前、在学中、卒業後に関する様々なデータを一元的に取り扱える仕組みを構築する	- IR室のあり方・全体方針・管轄データの視点からの有機的なデータ一元化のあり方提言・データ整理行程など - 管轄データの視点からの有機的なデータ一元化のあり方提言・データ整理行程など	01	04	
2	学生の学習意欲の持続と向上に貢献する効果的な経済的支援制度を実施する	- データに基づく現行制度の検証 - ワールド・ステージ・プログラムの学生認知度を向上させ、効果検証を定期的実施 2024年度から実施している学習意欲の持続と向上に貢献する経済支援を見直し、新たな経済支援を提言する	01		03
3	学生のチャレンジ精神を育て、その努力を公正に評価し、さらなる意欲につなげるための表彰制度を実施する	- 新たな資格取得スカラシップの検討・実施 - 新たな表彰制度における地域つながるプロジェクトやボランティア関係案件の推薦等	01		03
4	学生の課外活動（学内サークル、地域つながるプロジェクトなど）の活性化と活動成果のさらなる発展を目的とした、経済的・組織的支援制度を実施する	- 自助努力も促しながら課外活動の更なる活性化を目指す - 地域つながるプロジェクトの制度見直し	01		03
5	効果的なエンロールメント・マネジメントの視点から、同窓会と大学の連携のあり方を検討し、同窓会への協力の働きかけを行う	2026年度からの同窓会との新たな情報発信方式と行事の見直し検討と実現	01		03
6	効果的なエンロールメント・マネジメントの視点から、後援会と大学の連携のあり方を検討し、後援会への協力の働きかけを行う	2026年度からの後援会との新たな情報発信方式と行事の見直し検討と実現	01		03
7	配慮学生の新たな支援体制の仕組みづくり	配慮学生の今後の対応について新たな支援体制について提言する	01		03

4 グローバル・コンピテンスの向上

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE		
1	現在の関連カリキュラム（ワールド・ステージ・プログラム、外国語、外国文化理解、国際関係等）をグローバル・コンピテンスの視点から検証し、グローバル・コンピテンスを育てる教育を充実させる	- 全学的な現カリキュラムの検証と次期カリキュラム改正に必要な課題やポイントの整理 - グローバルコンピテンスに関する理解普及の支援 - セミナーの拡充、フィリピンなど経済的負担が軽減可能な派遣先や韓国中期セミナーなど学生のニーズが高い派遣先の開拓	01		03
2	キャンパス内において、異文化理解力を高め、多文化共生を考える機会を充実させる	- 留学体験報告会の全学へ向けた発信、交換留学派遣学生やセミナーで高い成果を残した学生による留学体験報告会を実施する - iCafeを学内全体だけでなく、地域の方も活用できるスペースとして拡げ、常に目的を持った交流が活発に行われている状態とする。	01		03
3	留学生入試、教育プログラムなどを見直し、学士課程、博士課程・修士課程に入学する留学生を増やす	- 留学生教育、英語完結教育プログラムの設計 - 留学生への学修支援の枠組み整備 - 留学生対象の新入試制度実施	01		03

Ⅱ 研究

1 研究活動推進の全学的な機運醸成

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE
1	各教員の研究を知る機会や研究成果を共有する機会を増やす	2026年度以降の毎年度、教員による教職員向けの研究活動・成果の報告会の実施 - 学部研究会の開催 - FDなどを通じて各教員の研究を知る機会や研究成果を共有する機会を増やす	02 05
2	近年の研究関連業務の増大をふまえ、研究活動推進により注力するための組織を構築する	- 組織再編へ向けた研究支援環境の準備・検討 - 研究倫理審査体制の見直し	02 04 05
3	学術論文及び根拠データへの即時オープンアクセスの実現に向けた仕組みを構築する	- 学術論文及び根拠データへの即時オープンアクセスの実現に向けた仕組みを構築する - エンバゴ期間のない、或いは終了した学術論文及び根拠データをリポジトリへ掲載し、根拠データに研究者がメタデータ付与する際の支援を行う	02 04 06

2 効果的な支援による個別研究の活性化

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE
1	優秀な研究者へインセンティブの付与を行い、高い水準の論文数や学会発表数を増やす等大学全体の研究パフォーマンスを高める	「優秀な研究者」の定義整理とインセンティブの内容の検討・方針の提案 - インセンティブについての情報収集・提供 - インセンティブ制度の財政的検証	02 03 06
2	研究生産性を高めることを目的とした、研究費のあり方及び研究費の執行方法の改善を行う	- 学内外の競争的研究費に関する本学様式の見直し 2028年度までに研究費執行方法の改善計画策定と実現 - 研究費と研究生産性が検証可能な経理上のデータの提供	02 04
3	研究プロジェクト等の遂行に、大学院学生を参画させ、研究活動の効果的推進や研究体制の充実を図るとともに、大学院生の若手研究者としての研究遂行能力の育成を図るため、RA制度を構築する	2029年度までにRA制度規程の制定 - RA制度に関する情報収集・提供	01 02 03 05

3 教育還元・社会還元のための研究成果の質的量的拡充

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE
1	研究の活性化、研究の高度化、研究による社会貢献を推進するため、科学研究費助成・受託研究・寄附研究等外部資金獲得件数、獲得額を増やしていく。	- 支援策の導入、検証、改善 2025年度にFDなどを通じて外部資金獲得に関する方針を策定し、2026年度以降は外部資金の獲得件数・金額の増加を目指す。	02 03 05 06
2	大学の研究面でのプレゼンス向上や学生募集強化への効果を高めるため、学内外への研究成果の発信を強化する	- 研究成果発信プログラムの実施、修道オープンアカデミー制度の検証（必要に応じ制度変更） - 研究に関する広報の学内外への発信を強化する - 研究成果発信強化施策の財政的検証	01 02 03 06
3	職務発明の知財化を推進し、そのための支援体制を強化し、今期事業計画期間中2つ以上の知財化をはかる	- 職務発明や知財化に関する理解促進等の方針案提出 2029年度までに研修支援強化による複数知財化の実現	02 05 06

Ⅲ 社会貢献・地域貢献

1 地域に開かれた大学（キャンパス）づくり

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE		
1	キャンパスが、地域の文化的・学術的資源、交流拠点として、地域の豊かな生活の充実に資するものとなるよう、キャンパス開放とリスク管理の両立を可能とする利用ルール見直しを行い、「地域に開かれたキャンパス」を実質化する	「地域に開かれたキャンパス」整備計画及び管理ルール策定 - 地域への体育施設の貸出についての方針・運用方法を策定する - 文化的・学術的資源を地域に開放することにより、地域住民の生活の質向上に貢献する	01	02	03 06
2	学生が高度な研究、社会実践的研究に触れることができる産学官ラボを実施し、拡充する	2025年度に産学官ラボの実施について検討する - 産学官ラボの実施に向けた支援	01 04	02 05	03 06
3	社会人学生、リカレント教育、産学官連携等、教育研究環境の拡大を念頭にいたサテライトキャンパス（街中キャンパス）の実現に向けたソフト面、ハード面の準備を行う	- サテライトキャンパスの必要可否の決定に必要な評価案作成 - 財政的検証及び学部施設における先行実績検証 - 参画し、コンテンツの検討を支援する	01 04	02 05	03 06

2 連携の推進と魅力ある連携事業の実現

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE		
1	地域の産学官組織から委員が参画する協議会を設置し、教育・研究・地域貢献についての外部検証を行い、大学の事業改善に反映する	協議会の設置と運営	01	02 05	03 06
2	包括的連携協定を結んでいる連携協定先などと、連携の実質化を図るために、積極的に教育事業を拡充させ、次期カリキュラム改正へ生かす	- 次期カリキュラムへの反映等の検討 - 広島大学、広島市立大学、修道大学の3大学院の単位互換制度の創設	01	05	06
3	包括的連携協定を結んでいる連携協定先などと、積極的な研究連携の実施と成果を積み重ね、本学との連携協定の魅力の1つとして研究力をアピールする基盤をつくる	- 研究連携の拡充の実施に向けた基盤構築 - 外部連携先を中心とした研究シーズのマッチングを推進するインフラの整備		02 05	06
4	包括的連携協定を結んでいる連携協定先などとのキャリア支援連携事業を活性化させ、学生のキャリア支援満足度を向上させる	連携インターンシップ・連携就業体験の実施	01	05	03 06

3 学生の社会活動の活性化

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE		
1	「地域つながるプロジェクト」を持続的な地域貢献へつなげていくために、学生の地域貢献活動プロジェクトの次のステージでのあり方についての検討を踏まえ実施する	地域つながるプロジェクトの制度見直し	01	05	03 06
2	多様な活動を行う学生を全学的な財産として位置づけ、各活動の活性化を図るとともに、現在部局にまたがっているボランティアやピアなど、学生の学内外の正課外活動の整理と活動を支援する事務分掌等を検証し、有効なあり方を実現する	- 学生の学内外での活動を支援方法を検証する - 入学センター担当の学生活動について事務分掌の検証と改善 - ボランティア関係の新たな事務分掌での実施	01	05	03
3	アントレプレナーシップ教育を充実させるとともに、起業活動支援環境を整備する	- 全学カリキュラム及び学部カリキュラムを包含するアントレプレナー育成の履修モデルの作成 - カリキュラムへの導入等の検討	01	02	03 06

Ⅳ 大学運営

1 働きやすく生産性の高い職場環境の構築

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE
1	業務の生産性を維持しながら時間や場所等勤務のフレキシビリティを高める勤務形態を実現する	- 教職員が働きやすい勤務制度設計 2028年度までに本学に適した環境整備を構築する	04 05 03
2	集中とリラックスのバランスのとれたオフィス環境を作る	2027年度から教職員が働きやすい環境への課題解決対応 2027年度からオフィス環境の課題解決へ対応 - 計画されたオフィス環境に適合するネットワークシステムを構築する	04 03
3	事務システムの改善を行う体制を整備した上で、データ共有やシステム間連携が最適化するための、期日や改善プロセスが具体的に記されたロードマップを作成し、それに基づいたシステム更新を実施する	- 次期事務システムの導入 2029年度までに連携方針に基づいたシステム更新 - 手続きの簡素化に向けて現状把握及びシステム導入の可否について判断する	04
4	業務を抜本的に見直し、業務フローやプロセスの徹底的な改善により定型業務のコストを低減する	2027年度までに今後の展開計画の策定と業務改善によるコスト低減の実現 - ワークフローを中心とした業務プロセスをシステムに適用させる	04
5	大学運営機能の低下や他への業務負担の移転等を生じさせない形で、既存委員会を整理する	委員会の削減	05

2 健全な財政基盤の維持

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE
1	財政の健全性と予算配分の適切性の検証を可能とする事業活動収支の考え方の導入検討（真に収支均衡を目的とした予算・決算のあり方）の検討	- 事例調査及び財務面の検証 - 財政を考慮した新体制導入に向けた調査、検証	04
2	事業計画と予算・決算が一体化したPDCA体制の構築に向けた準備を行う	- 新PDCA体制構築に向けた予算決算面の検証 - 事業計画と予算・決算が一体化したPDCA体制設計と新体制への移行準備完了	04
3	大学の健全な財政基盤の維持を前提に、運用益の適切な利用による事業活動の活性化や将来の資産形成等に資する効果的な資金運用を行う（アセットオーナー・プリンシプルへの対応準備）	2026年度開始の資金運用中期計画の遂行、アセットオーナー・プリンシプル対応 - 資金運用目的、運用方針案の提出	01 02 03 04 05 06
4	財政の健全性を維持するために、新たな収入源として寄附募集を促進し、遂行のための体制整備と実施を行い、目標寄附収入（寄附研究費を除く）以上の寄附を継続的に得る	- 継続的な寄附活動及び体制の見直しと寄附目標額の実現 2026年度から過去実績検証結果に基づく目標寄附額設定	01 02 03 04 05 06
5	収入源として重要な位置を占める学生生徒等納付金の安定的な確保を行う	- 入学者目標達成維持のための入試制度改革 - 新学部における入試スカラの導入と全学部への展開検討	01 03 04

Ⅳ 大学運営

3 個々と組織の成長につながる人財活用制度の構築

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE
1	高等教育機関の職員に期待される現代的役割について全学的な理解と共有を進め、役割を実現できるキャリアパス制度を構築し、実施する	・ 職員組織の成長につながる体系的なSD、キャリアパス制度構築	04 05 03
2	大学の社会貢献と各教員の能力向上に資すると同時に利益相反等を回避する教員の学外業務（兼業・副業等）の適切な取り扱いを行う	・ 2026年度までに兼業に関する規程整備 ・ 2025年度に学外業務の定義を検討し、明確にする ・ 教員の学外業務の適切な取り扱いに資するためのシンクタンクの事務見直し	04 02 03 06
3	長期的視点にたった教職員人事マネジメント改革（年齢構成の適正化、人財の多様性・流動性の向上、硬直的な給与制度からの転換等）の基盤を整備する	・ 教職員人事マネジメント改革の方針を策定し、第6期中期事業計画へ反映する ・ 長期的な人材マネジメントの基盤整備	04 03

4 危機に強いマネジメント体制の構築

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE
1	多様な危機に対する、準備、対応、回復の各段階における対応について、本学BCPを充実させるとともに、実際に対応が可能な環境を整備する	・ 2029年度に施設・設備等整備完了	04 05
2	多様な危機に対する、準備、対応、回復の各段階における対応について、本学BCPを通じて教職員全体が知るとともに、シナリオシミュレーションや行動訓練を実施し、対応力を高める	・ 2029年度までに研修等学内周知及び大規模訓練実施 ・ 部局内の防災訓練の定期的な実施	05

5 内部質保証の強化

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE
1	学内に質保証文化を確立し、継続的・実質的な自己点検・評価を行い、内部質保証体制を強化する	・ 学内質保証文化構築と内部質保証体制の強化	01 02 03 04 05 06

V 挑戦的取り組み

1 多様な学生が集う学び舎づくり

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE	
1	費用対効果を十分に考慮しながら、学生のキャンパス生活水準向上とSDGsの達成に貢献できる校舎等の立替や改築のロードマップを作る	2029年度までにロードマップ策定	01 04	03
2	さまざまな活動を支えるため、さまざまなリスクを想定し、それらを最小限に抑えることができる安全なキャンパスを創る	2028年度末までにDXを利用した初期改善計画の策定と実現 2029年度までにUDとリスク管理上のハード面改善着手	01 04	03
3	学生の居場所づくりに重点をおいたキャンパス改善（現状の小規模改修から新学部棟等今後設置または更新する施設への反映等）を行う	- 学生の居場所について現状分析及び計画を策定する 2030年度に学生の居場所づくり計画を反映した施設整備	01 04	03

2 広島修道大学（修大ブランド）のプレゼンス向上

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE	
1	「地域社会に貢献している大学」という実証の1つとして私立大学等改革総合支援事業における地域社会への貢献タイプに採択される	2025年度に採択要件を満たすための方針を策定する 2026年度に私立大学等改革総合支援事業タイプ3に選定	04	06
2	各地、各業界で活躍する卒業生との連携を深め、修大生のロールモデルとして、在学生や高校生に示し、在学生のプライド醸成、高校生にとっての価値向上を達成する	- 卒業生データの取り扱いを含めた新たな仕組みの構築 - アセスメントテスト結果による在学生のプライド醸成向上の検証	01	03 06
3	2024年度に構築するブランドビジュアルを活用し、幅広い広報活動の有機的つながりを生み出し、定着させる	2027年度までに大学広報物やグッズ、WEBサイトを統一的なブランドイメージで展開する - 学生募集活動でのブランドビジュアル展開		06

3 活動の活性化につながる教員活動評価制度の構築

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE	
1	教員活動状況評価表（制度）を見直し、研究の活性化と、それが教育や社会貢献へ生かされる仕組みを構築する	2026年度に新制度の承認、周知 2028年度までに教員活動状況評価の見直し	01 04	02 06

V 挑戦的取り組み

4 長期的な教育組織（学部・学科・大学院・教員組織）再編計画の策定

No.	全学行動計画	主な施策	対応するVALUE					
1	2027年度に完成年度を迎える社会学科を円滑に運営し、設置計画履行状況等（AC）報告への対応を滞りなく実施する	- 円滑な運営支援・AC対応 2027年度までのAC書類取りまとめ、提出及び公表	01	04				
2	2027年度開設予定の新学部の設置計画を遂行し、設置後の円滑な運営と、設置計画履行状況等（AC）報告への対応を滞りなく実施する	2025年度に設置認可申請書類を文科省へ提出する - 学部設置のための申請書作成、運営の支援・検証を行う - 農学部開設までに実験棟を建設・竣工、2027年度中に農学部棟を建設・竣工	01	04				
3	2024年度末に提出される大学院改革のためのワーキンググループの報告書をふまえ、大学院の組織再編に向けて計画を策定し、実行する	2028年度の設置認可（又は届出）申請 - 現3つのポリシーと再編案の調整 - 再編に向けてのディプロマ及び教育内容の修正完了	01	02		04		
4	将来的な学部・学科・その他教育機関の編成のあり方や、教育組織と教員組織のあり方について、議論を行い、計画を策定する	将来的な教育組織・教員組織の議論を踏まえた方針・ロードマップの作成	01	04		05		03
5	第5期中期事業計画の遂行状況と課題を検証し、第6期中期事業計画を策定する	2029年度に第6期中期事業計画を策定する	01	02		03		04
			04	05		06		